

「儲かる別府」「稼ぐ力」と言うが …… 結果が出ていないのでは！

市長さん。ヨコ文字事業が多すぎます。
わかりやすく説明してください。

- ◇4『B』i地域産業イノベーション
推進事業(3,000万円)
 - ◇産業連携・協働プラットフォーム
B-bizLINKに要する経費(4,127万3千円)
 - ◇DMO推進事業(7,307万4千円)…など
- 【平成30年度予算案から】

3月14日(水)に開
かれた予算特別委員会
で、平野市議は、長野市
長がすすめている経済
政策について質問しま
した。その中心点を紹
介します。

4『B』i事業とは？ その実績は？

4つの『B』とは

- ・別府市の『B』
 - ・別府プロジェクトの『B』
 - ・株式会社ビームスの『B』
 - ・B-bizLINKの『B』
- この4つの『B』の連携・協働で、別府の「稼ぐ力」を強化する事業。

国に提出した目標は

- 【平成29年度】10品目の商品開発、販売額5,000万円
- 【平成30年度】15品目の商品開発、販売額1億円
- 【平成31年度】20品目の商品開発、販売額2億円
- 計……45の商品開発、売り上げ額は3億5,000万円

実績は

- 【平成28年度】プレ事業として3,144万円で事業実施したが販売額は25万円だった。
- 【平成29年度】3,000万円の事業で、販売額は約200万円。
- 【平成30年度】同じく3,000万円の予算を組んでいる。

市議会が「意見書」を採択

上記目標と左の実績があまりにもかけ離れているため、昨年9月議会で、次のような意見書が採択されました。

「4Bi地域産業イノベーション事業については、その具体的な方向性が示されていないものと認識される。今後、事業の実施期間、内容及び数値目標等を明確にし、市民理解が得られるよう努めることを求める。」

地元業者を直接支援する 事業への転換を提言！



平野市議は、一面のような問題を指摘しながら、長野市長に経済政策の転換を求めました。

これに対して、長野市長をはじめ、阿南副市長、猪又副市長が次々と答弁に立ちました。が、ますますめている経済政策を継続する姿勢は変えませんでした。

平野市議は「平成30年度は長野市政1期目の最終年度であり、経過を注視したい」と述べ、質問を終わりました。

平野市議が紹介した 静岡県富士市の教訓

平成25年、平野市議は当時の観光建設水道委員会の一員として、富士市の「Fビズ」という組織を行政視察で訪問しました。責任者は元銀行員で当時の市長が地元銀行とかけあい、ヘッドハンティングした方です。

年間4200万円で市内業者を支援する事業を委託され、年間約2500件の相談にに応じていました。すべて直接対面し、シックリ↓

↓話し合うそつです。

① 相談者と同じ目線に立つて考える。② ビジネスや経営者のセールスポイントを的確に捉え、本人にも自覚させる。③ 戦略・戦術を共に練り、実現に向けて一緒に挑戦するという3点に心がけているとのこと。「地元企業の育成なしに地域の活性化はない」「結果にこだわっている」との姿勢に心から感銘を受けました。

B-bizLINK(ビービズリンク) とは 何をするのか？

【予算】 人件費、事務所運営費、事業費あわせて約1億5,400万円。全額、市が出します。

【事業】 販路開拓支援事業、移住定住事業、留学生ネットワーク構築事業、起業創業支援事業、DMO推進事業、空き家事業

※全事業が市からの委託事業です

長野市長は「ビービズリンクは『株式会社版別府市役所』であり、儲かる別府を創造する」と言います。

しかし平成30年度の予算と事業を見るかぎり、「市から委託料をもらい事業を請け負うだけの組織」に見えます。

市民が納得できる成果をあげることができかどうか、問われています。